

第3回 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会会議録

要約版

- 1 開催日時 令和6年9月13日（金）午後6時30分～午後8時15分
- 2 開催場所 中原市民館2階 第2会議室
- 3 出席者 委員 和委員、黒田委員、望月委員、原田委員（松田委員代理）、高村委員、中山委員、藤田委員、
事務局 小澤学校教育部長、小竹健康教育課長、末木健康教育課担当課長、里見健康教育課指導主事、富山健康教育課担当係長、鈴木健康教育課職員、堀込健康教育課職員
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 懇談会の目的
 - 3 委員紹介
 - 4 内容
 - （1）前回までの振り返り（公開）
 - （2）これまでの取組状況（公開）
 - （3）本市における今後の進め方（公開）
 - （4）その他（公開）
- 5 傍聴者 0人
- 6 内 容

小澤学校教育 部長	<挨拶>
事務局	<資料の確認と懇談会の目的について説明> <事務局より資料1に基づき説明> <各委員から自己紹介> <事務局から自己紹介> <事務局より資料1及び資料2－1に基づき説明>
和委員	面白い結果だが、これを基に部活動のあり方を検討するのにどういったかたちで生かしていくのか、もう一度説明を頂ければ。
事務局	クロス集計で出てきた種目ごとの負担感の改善を大会や引率の見直しという視点で行うことの必要性を感じている。また、部活動の日数によっても負担

	感の有無が違ってきている。アンケートでも出た「気軽に」という言葉の意味が昔と変わってきているので、どこが改善ポイントなのかも含めて、ニーズをもう少し把握していく必要があると考えている。
和委員	この懇談会は年何回の開催を予定しているのか。
事務局	2回から3回を予定している。
和委員	今回3回目ということで、今年度どこまで検討してどこまで取組を行うかという目標やイメージがあると、どこまで意見を言えればいいのか発言がしやすい。
事務局	おっしゃるとおりと思っている。後ほど現場の先生にも御発言いただけると思うが、現状の改善も取り組み、かつ子供たちの活動を担保していくことを考える必要があり、なかなかすぐに結論は出ない。今後の進め方については、後ほど子供の声をもっと聴く必要があるということを御説明するが、現状では確かなイメージを持っていないので、そこを作り上げるための御意見をいただければと思っている。
小澤学校教育 部長	単純集計とクロス集計の結果から二極化するということは御理解いただけたと思うが、そこに将来の持続可能な部活動、教員の働き方改革という視点も踏まえる必要があるので、かなり大きな話になってきていると思う。近年、「数値やエビデンスに基づく施策」が叫ばれている中で、エビデンスや数値にあたる要素をすべて把握できているわけではない。単純集計やクロス集計に加えてもう少し中学生の意見を聞き、どういったエビデンスがあり得るのかを探っている状況なので、その中で都度懇談会を開き、意見をいただくことになると思っている。
中山委員	アンケートの対象者は、部活動に入っていない生徒やその保護者も含まれているとの認識でよいのか？
小澤学校教育 部長	入部の有無にかかわらず、引退した3年生も含めて取らせていただいた。
中山委員	入部の動機として「何となく」を選んだ生徒が19%いるが、部活をやっていて途中でやめた生徒はどの程度いるか把握しているか？ その結果がクロス集計で出てきた「気楽にやりたい」「もっと上手になりたい」という生徒の考えの二極化にリンクしていると思う。

	皆さんどう考えて活動されているのか知りたい。
事務局	部活動をやっていない子には部活動の質問はしていないが、なぜ部活をやっていないかの質問にはクラブチームでやっているという回答が多かった。また、部活動をやめたからという回答も一定数あった。やめた理由は聞いていないが、要望の中で気軽にやりたい、自分のペースでやりたいという意見はあった。
司会	今のお話の中について学校の状況など、御紹介いただけるものはあるか。
高村委員	二極化については、自分が昔顧問を持っていた頃からやりたい、ちょうどよい、減らしたいという三層くらいに分かれていて、目標を合わせる事が難しかったと思う。代によっても傾向が違っているので、無理に同じ目標に合わせる時きつくなる。クラブチームが盛んな地域では、もっと上手になりたいという子はクラブチームに行っているし、本校の生徒も上達目的より好きだから入ったという生徒が多い。クラブチームが少ない地域では生徒のみならず保護者も二極化するし、その狭間で先生方も苦勞される。
司会	原田委員も文化部の立場からどうか。
原田委員	二つ意見があって、このアンケートの結果については、回答の時期的に吹奏楽・演劇・合唱などはこれから文化祭を挟んで上位大会に向けてのコンクールがあるので、そこへの気持ちが反映されていると思う。また、文化部に所属している生徒は興味関心から入る生徒と、運動部が苦手で、その中で自分にあった部活を探して入ってくる2通りがあり、後者が「なんとなく」と答えた生徒の心理に近いのではと思う。その反面、試合やコンクールの回数については「増やして欲しい」が20%に対し、「減らして欲しい」が3%なので、目標を持って活動するのが楽しみになっていて、そこは運動部も文化部も同じなのかなと思う。
中山委員	喫緊に解決しなければいけない課題に直面している一方で、上達したい生徒と気軽に楽しみたい生徒の両立が難しい気がしている。一方で働き方改革や負担軽減のニーズが高いため、地域のスポーツ資源を使って活動場所を分けていくやり方もあると思う。あまり地域移行に行き過ぎても全国的にいい先行事例がないと思うが、大田区は進んでいて、地域団体が学校のお手伝いをしたり生徒の預かりを行っている聞いたことがある。
黒田委員	私が所属する法政大学第二高校は部活動が活発な学校で、先日校内で同じよ

藤田委員	うなアンケートを実施したが、本日のクロス集計とほぼ同じ結果だったので驚いた。部活を目的に入学している生徒ですら疲労や両立に負担感を感じているし、教員も負担感を感じている、しかしやりがいも感じるというところがほぼ同じ傾向であった。 また、我々がアンケートを行ったのは、教員の労働時間の内訳と子供の1日の生活時間の内訳を調査する目的だった。アンケートだけだと主観的になるので、客観的にどういう時間を過ごしているかという視点から部活動のあり方や指導の方法を考えていくために行った。 単純集計を細分化していくとやはりというか、生徒視点では運動部は体力を使うし大変だ、保護者と先生の視点では働き方改革の視点や朝弁当を作る親の事情も軽減化したいという気持ちもわかる一方で、ゴールが明確になった分深刻な問題が出てきた。もともとこの懇談会は地域移行から始まったと思うが、若い子は「気軽に」という言葉で重いことを回避する傾向があるので、ここをくみ取りすぎると楽な方に流されてしまい、将来を考える上で非常に不安である。どこに行きたいかの目的を定めず結果に流されてしまうととてもないことになると思った。この会議がどこに向かうのか非常に興味深い。
小澤学校教育 部長	このアンケートを取ったとき生徒は自身の主観で回答されているだろうと思っている。学校の先生が負担感を感じているデータも出ているかと思うが、そういう情報は生徒に伝わっていないので、生徒の主観で回答されたアンケートだと思う。仮に先生のアンケート結果を提供したとして、返ってくる回答は違うかもしれない。それぞれが常を感じていることをフラットな状態で聞いたアンケートだと思っていただければ。
司会	この件については、資料3のところで改めて方向性については説明するため、一旦終了する。続いて教員にも実際に改めてヒアリングをしたので、その内容について説明させていただく。 <事務局より資料2-2に基づき説明>
司会	結果について質問や御意見はあるか。それでは、これからの部活動について資料3の説明をさせていただく。 <事務局より資料3に基づき説明>
和委員	生徒がアンケートの結果から先生方が大変ということも分かった上で、自分

	たちも地域とともに作っていききたいという力強い意見が多く、とても心強かった。こちらの懇談会でも次のアクションが考えられたらと思う。
司会	現時点で具体の案はないが、多忙化の解消も問題として認識しているので、まずは将来を踏まえた上で子供たちの部活動についてもう少し声を聴いていきたいというのが事務局の考えである。
望月委員	他の自治体ではPTAがこういった場に入って、例えば卒業生の親が協力体制を作るという話も聞いたことがある。外部に頼むと費用負担の問題があるので受益者負担も簡単にはいかないと思う。地域の関わり方については、実際に地域に輪の中に入れてもらう必要がある。川崎は文化系の人材が相当おり潜在力はあるが生かす場がないので、そういった方たちに意見聞くことも一つの手だと思った。
中山委員	アンケートの結果での先生方の意見として、指導は外部に任せられないという意見であったり、部活の教育的側面については外部が入ることのハードルが高い感じを受けたが、大会運営については切り離して、スポーツ資源をもっと活用してもいい気がする。大会運営の手伝い等であれば地域スポーツ資源も活用できるような気もするがいかがか。
高村委員	やっていただけるなら助かる。中体連主催の大会以外にも、市民大会、新人戦等があるが、その多くを教員が担っている。運営に携わっていただけるなら非常に助かる。しかし、そこには費用や保険の問題がある。
黒田委員	吹奏楽についても、コンクールは運営を先生にお願いしないと回らなくなっている。大会の参加人数が多い中で運営のアウトソーシングを行うと、各参加者に金銭的負担が発生し、参加したくてもできない学校が出てくる。先生の負担軽減と参加者の負担増のジレンマがある。 ワークショップの「多様な主体」というワードが川崎らしいと思った。みんなで認め合いつつ、どこかで折り合いをつける。これでモデルができれば川崎らしい活動になると思った。
中山委員	ワークショップを次回案内いただければ助かる。
藤田委員	子どもが親、教員の先にいる地域の人と出会うためには、「指導者は信頼できる」「顧問業務において顧問と指導者は分業になっている」を子供が理解できることが必要。海外の児童劇団などでは、劇の内容も対象年齢が2年ごとに分かれている。それぞれの世代ごとに使う言葉や内容も違うし、そもそ

	も作品からして全く違う。学校の先生はそういう年齢ごとに異なる教育的配慮を細やかにできる方々なので、そういった方々が子供たちから離れないでいただければと思った。
高村委員	引率の問題だけでもクリアできるとかなり楽になると思った。例えば多摩区在住で川崎区の学校勤務の教員が多摩区の練習試合に行く場合は、一旦川崎区に行って多摩区に戻り、また川崎区に行って多摩区に戻りということをしなければいけない。子供たちだけで行けるようにする、それが難しかったら代わりに保護者が連れていく、などだけでもかなり負担が減る。諸外国は治安の面であり得ないかもしれないが、日本は子供だけでディズニーランドに行くような話も多いので、あり得ない話ではない。また、朝練が負担という話は、負担ならやらなければいいと思った。グラウンド使用の割り振りの関係などで通常の時間に使用できないなど、意味があればいいが、他の部活がやっているからなど、流されてやるなら意味がない。 また持続可能性の話で、本校でも教員の数が近年減っていることから、ある部活を休部にする可能性があるという話を保護者に投げかけ、休部にすることがある。そうしないと教員がいなくなる。
望月委員	朝練について、生徒が自主的に練習を行うという形はあったりするのか。
高村委員	部活によりけりだと思う。ただ子供たちだけで勝手にやるということはできず、顧問は見ているといけいない。
望月委員	少子化で生徒数が減るので、国庫補助も教員も減らされることがあるが、複数校で一つの部活などの事例はあるか？
高村委員	今はないが、一緒に大会に参加することはある。合同部活動も将来的に可能だと思うが、教員がよしとするかの問題や、教員同士の方針の違い、行事を合わせるなどの問題はあると思う。
司会	以上で第3回川崎市立中学校の部活動に係る懇談会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。